

ヨシを学び、ヨシに触れ、ヨシを育て、野洲川河口部ヨシ帯に植えてみた！

～地元小学校と約3ヶ月にわたるヨシ移植までの軌跡～

琵琶湖河川事務所では、野洲川の自然再生事業の一つである『野洲川河口部ヨシ帯再生』において、地域のみなさんとの連携によりヨシ帯の持続的な維持管理を目指しています。今回、地元小学生の環境学習に関する協力依頼があり「ヨシについて学び、ヨシ移植をしたい」という中で、守山市環境政策課や淡海環境保全財団と連携し、「野洲川河口部のヨシ帯を助けて」というテーマを設定しました。

ヨシや河口部ヨシ帯の現状について説明し、「助けてほしいこと」として、ヨシを増やす、そのためにヨシ苗を育てる、育てるためにヨシポット（※1）を製作するなど、約3ヶ月にわたって児童と一緒に取り組みました。育生中、ヨシ苗が枯れかけるハプニングもありましたが、無事、ヨシ苗を移植することができました。春に向けてヨシが育ち、コイやフナの稚魚の住みかになることを願っています。

※1 ヨシを粉碎しチップ化して接着させたビニールポットに変わる品で、苗と一緒に設置することが可能であり、ヨシが吸収したCO2を土中に固定することでCO2の排出を減らすことにも繋がる試作品。（兵庫県立大学三橋氏考案・監修）

○：実施箇所



野洲川河口部

①事前説明・ヨシ学習 9月6日



②ヨシポット製作 9月6日



③ヨシ苗をヨシポットで育成 9月9日



④野洲川河口部左岸にヨシ苗を移植 11月26日



<< みんなの感想 >>

- ヨシという植物は最初は知らなかったけど私たちのためにたくさん大人の方が教えてくれてとてもうれしいです。知らないこともたくさんあってびっくりしました。
- ヨシは大事じゃ無いと思っていたけどヨシは川をきれいにするから大事だと思った。今後時々ヨシの様子を見に行きたいです。
- ヨシは川、琵琶湖、海などをきれいにしたたり、動物がこちよく過ごせるすみかになったり、魚が卵を産んだり、すみか、隠れ家にもなって、すごいなと思いました。
- ヨシ植えを1人～10人でやるのはきついと思いました。だから手伝って良かったなと思いました。これからもできる機会があったら手伝おうと思いました。
- ヨシを植えると生き物が増えたり、プランクトンが増えると水がきれいになることを学んだから、植えたヨシがちゃんと育ってほしいと思いました。今後ヨシが成長して琵琶湖の水がきれいになったらいいなと思っています。

参加者：守山市立玉津小学校4年A組・B組（児童47名、教師3名）・
淡海環境保全財団・守山市環境政策課・琵琶湖河川事務所 他

【問合せ先】

国土交通省 近畿地方整備局
琵琶湖河川事務所 流域治水課
〒520-2279 大津市黒津4-5-1
TEL 077-546-0867（代表）

